



【本号の内容】

（主張）沖縄県知事選挙 新時代沖縄に向き合おう 分断の修復が新知事の急務だ（木川智）：1 / 【解説】第五回南北首脳会談開催される朝鮮戦争と日本（西山徹）：3 【連載】アジア放浪記―歴史を掘り起こし日本を見る 台湾編⑤（仲村之菊）：6 / 八月・九月活動報告：8 / 【記録】沖縄戦⑥）軍民・日米それぞれの視点から（沖縄戦史研究会「棒兵隊」）：18 / お知らせ・編集後記：20

1 部 1000 円
（別途送料 160 円）

沖縄県知事選挙

玉城デニー氏当選

新時代沖縄に向き合おう 分断の修復が新知事の急務だ

神苑の決意 主筆 木川 智

【主張】 九月三〇日、沖縄県の翁長雄志知事の逝去にともなう沖縄県知事選挙の投開票がおこなわれ、前衆議院議員の玉城デニー氏が、前宜野湾市長の佐喜真淳氏ら他の候補を破り、当選した。得票はデニー氏三九万票、佐喜真氏三二万票。投票率は六三％であった。佐喜真氏ら各候補の健闘を称えるとともに、前回の県知事選挙の翁長前知事の得票はおろか、稲嶺恵一元知事の歴代最多得票も超えたデニー氏の当選を心からお祝いし、デニー氏の掲げた「新時代沖縄」の到来に期待したい。

四年前の翁長前知事の知事就任以来、虎視眈々と県政奪還・基地押しつけを企んできた安倍政権は、沖縄や基地に関する数々のデマを拡散し、金をばらまき、権力をふりかざし、恫喝を繰り返して「沖縄つぶし」を実行してきた。安倍首相や菅官房長官は翁長前知事の面会要請を長期間放置したが、それはまさしく安倍政権による沖縄の民意の無視であった。そして二月の名護市長選挙はじめ沖縄県内の各選挙で勝利を重ね、ある種の「沖縄包囲網」を築き上げてきたが、その企てはこの選挙によって崩れ去った

のである。安倍政権は沖縄の民意を尊重し、デニー氏の掲げる「新時代沖縄」と向き合うべきである。デニー氏は佐喜真氏に八万票もの差をつけたが、佐喜真氏も三二万票の得票という大健闘だ。この「もう一つの民意」に敬意を表し、しっかりと受け止める必要がある。佐喜真氏支持という「もう一つの民意」を無視するのであれば、それは安倍政権のやり口とかわらない。東京から持ち込まれ、拡大してしまつた沖縄の「分断」の修復がデニー氏の急務であり、そのためにも「もう一つの民意」に耳を傾け、